

教師力向上支援事業派遣研修報告書

- 1 所属・職・氏名 富山県砺波市立出町小学校・教諭・小谷内智信
- 2 研修期間 令和元年9月15日（日）～令和元年9月23日（月） 9日間
- 3 調査研究課題 ドイツの複線型教育制度の実態と職業教育の現状視察による、本県小学校段階のキャリア教育推進に関する調査研究
- 4 研修機関等 ドイツ：在デュッセルドルフ日本国総領事館、ザンクト・ペーター小学校
アルブレヒト・デューラー専門学校、ゾーリングン刃物博物館
デュモン・リンデマン共同基幹学校、デュッセルドルフ手工業会議所
Nessmann bad&heizung GmbH 社、ケルン大聖堂
ベルギー：EU 本部
フランス：オルセー美術館、ルーブル美術館

5 研修の概要

(1) 在デュッセルドルフ日本国総領事館

磯正人総領事を表敬訪問し、ドイツの社会情勢及び教育事情全般についてレクチャーを受けた。ドイツは、連邦制つまり16の州が中央政府の下に結合している国家である。そのため、教育は、各州による主権教育がなされており、予算も州に委ねられている。国が予算を歳出する際には、法律を変更しなければならない。教育制度として、職業教育が充実しているが、教師数の不足が深刻化しつつある。また、高校や大学への進学率は上昇してきている。他国からの移民が増えていることから、日本とは異なり少子化が社会問題とはなっていない。

デュッセルドルフには、多くの日本企業があり、日本人学校では日本の教育水準と同等の教育がなされている。しかし、中学校卒業時には、インターナショナルスクールを目指すか、日本に帰国しないことを前提に現地校に進学するかの2つに選択肢が限られている。

働き方への意識については、日本とは異なり、残業をほとんど行わず限られた時間の中で仕事を行うという意識が高い。仕事と余暇をはっきりと区別させているように感じられた。

(2) ザンクト・ペーター小学校

生徒数約200名、教員15名。デュッセルドルフ市内で最も人口密集地域の一つであるフリードリヒシュタットに所在。父兄の仕事上の転勤の関係から、生徒の入れ替わりが激しい。カトリック宗派学校であるが、あらゆる文化・宗教をもつ子供が歓迎・尊重されており、特定の宗教行為が強制されていない。難民の流入を背景に、ドイツ語がまだ話せない子供向けに、週15時間のドイツ語授業を実施。文化教育にも力を入れている。



ここでは、初等教育（6～10歳）が行われている。特に、自分で学習を進めていくこと（自立学習）ができるような授業形態がとられている。また、どの教室にも、チームティーチングのように、主教師と副教師が存在し、個の実態に応じた指導がなされているように感じた。

また、学校と家庭の役割が明確に分けられており、学校教育方針を保護者に十分に理解してもらい、保護者の同意によって入学が認められる。そのため、学校における全てのルールに子供が従っている。異文化による子供同士のトラブルや学校と家庭とのトラブルは起こらない。

在学中に、職業を選択するための教育はあまり行われていない。あくまで、職業選択については家庭教育の役割とされている。

(3) アルブレヒト・デューラー専門学校

在籍生徒数約4,700名（うち、1,500名が毎日の授業に参加）、教員140名、職業訓練及び教育実習中の教員15名。ノルトライン＝ヴェストファーレン州で最大規模の設備を備えた学校。手工業、産業分野の38のパートナーと協力し、①職業訓練前の準備コース、②職業訓練、③職業訓練後の専門技能の習得という3段階の学習過程を採用している。教育上の理念として、①青少年

の自立と自己責任能力の促進、③社会的に責任ある人間になるための道徳的価値観の伝授を掲げている。

この学校では、職業に関わる知識の習得を主としており、自分の就きたい職業（すでに職業に就いている場合は、そこでの能力を高める）に必要な授業を自ら選択できる。研修は、実際の職場でできる。授業料は免除され、実地研修先によっては、給与が支払われる。実地研修先は各自が選ぶことになっており、商工会議所等が情報を提供している。

(4) デュモン・リンデマン共同基幹学校

生徒数約 530 名、教員 30 名。市中心地に位置する典型的な「中心市街地スクール」であり、生徒の 80%が移民家庭出身、国籍は 20 か国に上る。生徒の半数以上がイスラム教徒。ドイツ語の補習プログラム等が充実。通常の授業の他に職業選択に関するオリエンテーションを実施。ホテルをはじめ、校外の協力機関と提携。進路指導や職業訓練先へのサポートに定評があり、優秀校として認定機関による各賞を受賞している。

この学校では、職業に就く前段階の教育がなされており、卒業後は職業研修ができる学校へ進学できる。

(5) デュッセルドルフ手工業会議所、Nessmann bad&heizung GmbH 社

手工業会議所とは、ドイツの手工業分野で事業を起すために必要な資格制度（マイスター等）を統括し、各職種の職業資格の認定試験を実施する職能団体。デュッセルドルフ手工業会議所は、デュッセルドルフ市及び近隣自治体を含むデュッセルドルフ行政区を管轄としており、約 57,000 社に上る手工業事業所の権益を代表する。会員企業である各事業所に対しては、多岐にわたる情報提供・相談サービス（経営・法律関連）や、職人の仲介、職業訓練所の仲介等の支援を行っている。会議所内にアカデミーを有し、25 職種を対象とした職業訓練・実習の場を提供している。



州の補助金と会員企業の会員費で営まれており、様々な職場と各学校との仲介的な役割を果たすとともに、起業するためのコンサルタントも行うなど手工業を支える要となっているように感じた。

(6) 研修を終えて

本研修は、これまで海外に目を向ける機会が少なかった私にとって世界を知る貴重な研修となった。教師としてだけではなく、国際社会に生きる社会人として、これまでの自分の常識を広い視野から見つめ直す機会となった。

研修を通して特に 3 つのことについて振り返る。1 つ目は、子供は未来の社会における財産ということである。国が違っても子供たちの笑顔はとても輝いており、そこに国境は存在しないと感じた。ドイツでの職業教育の充実からもそのことを伺い知ることができた。将来を見据えたキャリア教育の在り方について小学校段階ですべきことを考え実践していきたい。2 つ目は、コミュニケーション能力を身に付けることがいかに大切であるかということである。本研修では、違校種の先生方や県内経営者の方々、研修先の方々など普段接する機会のない方々とコミュニケーションを図る時間に恵まれた。また、様々な国籍をもつ子供同士が同じ時間を共有している現状を目の当たりにした。様々な人と積極的にコミュニケーションを図り、自他の歴史や文化を理解、尊重し合っているように、子供から大人までそれぞれのステージに合ったコミュニケーション育成プログラムを考えていく必要があると感じた。3 つ目は、物事に対して疑問をもち追究していくことの大切さである。研修中にヨーロッパと日本の歴史や文化について考える機会があった。単に「美しい」「素晴らしい」ではなく、「なぜ美しい？ どうして素晴らしい？」と自分に問いかけ、追究していくことで、その本質が少し分かってくると感じた。そこから新たな学びが始まる。私自身が学ぶ姿勢の手本となれるようになりたい。

このような機会を与えてくださった富山県教育委員会並びに富山経済同友会の皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。